



北信がんフロ
超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成

平成29年度 事業報告書



石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

目次

巻頭言

- ・はじめに 1
石垣 和子

平成29年度 がん看護専門看護師 (Oncology Certified Nurse Specialist: OCNS) 育成の取り組み

1 本科生の育成

- ・「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」(北信がんプロ)の概要と本学における
がん看護専門看護師養成 5
牧野 智恵
- ・本科生の学び 8
瀧澤 理穂

2 インテンシブコース

- ・本学におけるインテンシブコースの成果 9
牧野 智恵
- ・「ライフステージ事例検討会」の運営に携わって 11
樋口麻衣子
- ・「ライフステージ事例検討会」に参加して 12
山崎 智可
- ・「ライフステージ事例検討会」参加者アンケート集計結果 13
樋口麻衣子
- ・「OCNS対象 がん看護事例検討会」参加者アンケート集計結果 20
樋口麻衣子

平成29年度

本学において超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ） にて企画・実施した内容の報告

1 公開講座

「グリーフの理解とナースに求められること」

- ・公開講座「グリーフの理解とナースに求められること」を開催して 25
松本 智里
- ・「グリーフの理解とナースに求められること」 27
講師 下稲葉かおり
- ・「グリーフの理解とナースに求められること」に参加して 28
渋谷美保子
- ・「グリーフの理解とナースに求められること」 アンケート集計結果 29
樋口麻衣子

2 看護実践セミナー

「リンパ浮腫ケアについて 臨床で行なうリンパ浮腫のケア」

- ・看護実践セミナー「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」を開催して 31
金谷 雅代
- ・「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」 33
講師 高地 弥里
- ・「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」に参加して 34
高山 清敏
- ・「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」 アンケート集計結果 35
樋口麻衣子
- ・「臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編」ポスター 39

3 FD・SD研修

「ケアの意味を見つめる事例研究」

- ・FD・SD研修「ケアの意味を見つめる事例研究」に参加して 40
金谷 雅代
- ・FD・SD研修「ケアの意味を見つめる事例研究」アンケート集計結果 42
樋口麻衣子

4 SD講演会	
「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」ポスター	44
5 海外FD研修	
「メルボルン緩和ケア視察研修2018」スケジュール	45
<おわりに>	
・「新しい「北信がんプロ」スタートの1年を振り返って」	47
	牧野 智恵
6 平成29年度 「北信がんプロ」委員会委員、本学各種企画・運営担当者 一覧表	
	48



はじめに

石川県立看護大学学長 石垣 和子

がんは、我が国の死因第一位の疾患で、生涯のうちに約2人に1人が罹患すると推計されるなど国民の生命及び健康にとって重大な問題となっております。

本学はこれまで「北陸がんプロ」、「新・北陸がんプロ」の名のもとで、2期10年にわたって北陸地域のがんプロフェッショナル養成プラン（2007-2016：文部科学省）に参加する大学として、看護職のがんに対する専門性を高める役割を担ってまいりました。さらにこの度、今年度から新たにスタートした「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（2017-2021：文部科学省）に採択された「北信がんプロ」（基幹校：金沢大学）の一員になり、看護職の立場から国民の重大課題であるがんに対する専門医療人の養成を継続させていただくことになりました。

この「北信がんプロ」は、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマにし、がんゲノム医療、小児がん、希少がん、AYA世代や高齢者のライフステージに応じたケアに対応できる医療従事者を養成することを目的としています。本学も、微力ではありますが、この機会に小児から老年まで年齢幅を広げた取り組みを展開したいと思っております。また、本学は、石川県の能登地域の入り口に位置するかほく市にあり、過疎地域の住民の健康問題、医療問題、看護の課題に対して、従来から研究や支援をしてまいりました。学部学生・大学院生も過疎地域で学ぶ機会が多く、知らず知らずに過疎地域への親和性を高めております。そのようなことから、過疎地域におけるがん看護についてもぜひ役割を担っていききたいと思っております。

2017年10月の第3期がん対策基本推進計画では「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す」と述べられております。その施策には、「小児がん、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代のがん、高齢者のがん医療の充実」「ライフステージに応じたがん対策」が示されています。北信がんプロにおける本学の役割の大きさに、身が引き締まる思いであります。

北信がんプロは、金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学など医学部を持つ大学が中心となっているなか、本学は看護の単科大学として独自性を発揮せねばならないと考えております。今回からは、これらの大学の学長が参加する学長連絡協議会が立ち上がったことで、北信がんプロの目的や役割を大学全体で共有する機会とし、さらにはがん医療を担う看護職を養成する本学の教員グループに対する支援をして参りたいと考えております。

今年度の北信がんプロ採択通知が届いたのが、7月上旬であったため、本学での事例検討会の開催は例年に比べ少なかったようです。しかし、第2期までの北陸がんプロで教育の基盤を作り上げていたため、さまざまな研修・講演会を実施し、看護師やその他の医療従事者へのがんに関する知識・技術を提供することができたようです。その活動内容が、本報告書に掲載されております。また、本学のホームページにも、今年度までのがんプロ企画で実施した研修内容を見ることができるよう整備いたしました。是非、本学のホームページやがんプロのホームページをご覧ください、がん医療の知識を習得いただければ幸いです。

平成30年2月吉日

平成29年度
がん看護専門看護師
(Oncology Certified Nurse Specialist: OCNS)
育成の取り組み

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」(北信がんプロ)の概要と 本学におけるがん看護専門看護師養成

大学院実践看護学領域・成人看護学(がん看護)分野 教授
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
本学がんプロ企画運営委員長 牧野 智恵

1. 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成の概要

がんプロフェッショナル養成プラン(がんプロ)は、がん対策基本法が施行された2007年から開始されている。第2期がんプロは2017年3月で終了し、本学もその成果に貢献してきた。

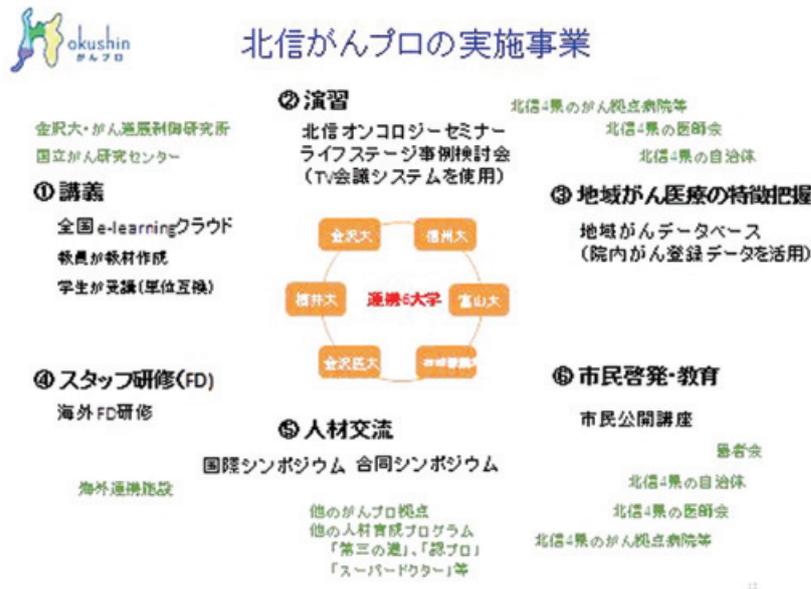
文科省は、2017年度から5年間にわたる、第3期のがんプロを提案し、そのテーマを「多様な新ニーズへの対応」とした。その期待される成果としては、「がんゲノム医療従事者の育成」「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の育成」「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」の3つを示した。全国から80大学による13拠点の応募があり、2期で金沢大学など5大学で活動した「北陸がんプロ」は、今回、信州大学に加わってもらい「北信がんプロ」として応募し、採択された。この北信がんプロは、第2期までの実績を基に、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」を事業テーマとしている。

北信がんプロでは、北信4県(長野県、富山県、石川県、福井県)の平成27年の生産人口(15-64歳)が全国平均の平成42年のそれよりも少ない(総務省統計局統計データより)ことから、北信地域を超少子高齢化地域と位置付け、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマに掲げた。



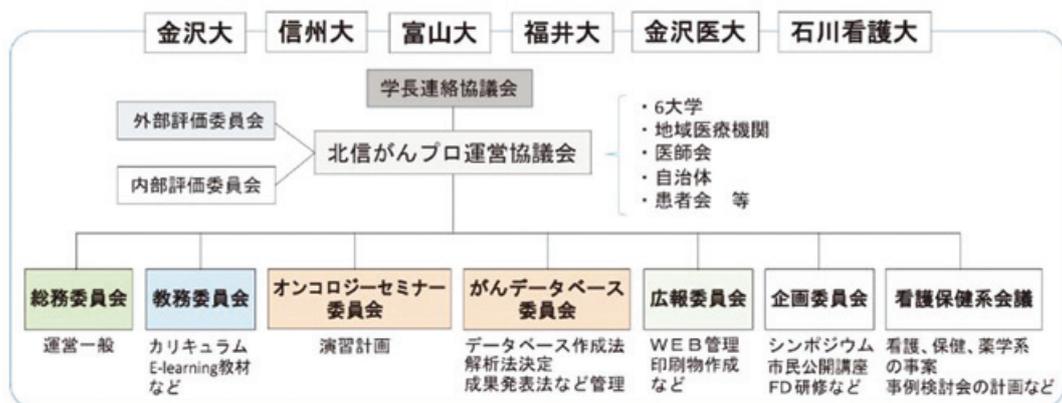
図1 北信がんプロの概要(ポンチ図)

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育では、がん看護専門看護師の育成(本科生)と、テレビ会議システムを活かした事例検討会を実施し、がんに関心ある看護師の育成に努める。



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)では北信地区の医科系・看護系6大学の連携のもと、下記のように学長連絡協議会、外部評価委員会、内部評価委員会、並びに北信がんプロ運営協議会(6大学、地域医療機関、医師会、自治体、患者会等)を設置し、事業が当初の目的通り、計画通りに進捗しているかを定期的にチェックする。

また、6大学間では総務委員会、教務委員会、オンコロジーセミナー委員会など、各種委員会に各大学の委員を配置し、計画的かつ適切な事業運営が進められるよう定期的に委員会を開催する。



本学では、1) がん看護専門看護師の育成、2) インテンシブコースとして「がんライフケアコース」の実施を計画した。上記の1) および2) のコースのいずれも、本学が中心となって運営しているテレビ会議システムを利用した「がんライフステージ看護事例検討会」への参加を条件としている。遠方で働く看護師同士が移動することなく一堂に会して事例検討会に参加できるという特徴がある。仕事の後に気軽に最新のがん看護実践を学べることを狙いとしがん看護の知識の普及に努めている。

本科生の学び

大学院博士前期課程 実践看護学領域・成人看護学分野
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ） 本科生2年
瀧澤 理穂

2016年4月、私は本学大学院のがん看護専門看護師コースに進学しました。臨床を経てから改めて学ぶ看護理論や看護研究は非常に奥が深く、患者や医療現場で起こった現象を捉え直す機会となり、刺激的な毎日でした。がん看護専門看護師の臨床実習では、広い視野から多角的な情報を関連させて、時間経過や他者との関係性から患者の全体像を捉え、介入すべき課題を焦点化することの重要性に気付きました。また、自分の看護について、積極的に言語化・可視化していく必要があることを学びました。

チーム医療の必要性が叫ばれて以来、患者と関わる機会が多い看護師は、常に実践や調整という重要な役割を求められています。患者を中心とし、多方面から支えていく医療を提供していくためには、多職種が協働し、専門性とそれぞれの思いを十分に話し合う機会が必要だと考えます。その点においても、超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）のライフステージ事例検討会は、他施設の取り組みや、多職種の様々な価値観や思考に触れ、意見交換が出来る非常に有意義な機会となりました。今後は北信がんプロでの貴重な学びを糧とし、がん看護の向上のために精進していく所存です。

今年度の本学におけるインテンシブコースの成果

大学院実践看護学領域・成人看護学（がん看護）分野 教授
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
本学がんプロ企画運営委員長 牧野 智恵



今年度からスタートした北信がんプロでのインテンシブコースでは、「がんライフケアコース」として、がん患者の各ライフステージに応じたケアの知識・技術を深めるための内容を実施した。第1期がんプロから実施している「インテンシブAコース」をはじめ、第2期がんプロから開始した「地域がん看護師養成コース」、「地域がん看護活性化コース」、への募集も引き続き実施してきた。

それぞれのコースの基本となっている科目は、本学が主催している「ライフステージ事例検討会」（60分）と、がん看護専門看護師による「ミニレクチャー」（20分）であり、遠隔地からでも参加できるよう、テレビ会議システムを用いていることが大きな特徴である。毎回、本学の教員や大学院生、がん看護専門看護師が参加し、テレビ会議システムを導入した北陸信4県の病院（21施設）とがん看護に関する事例について意見交換されている。北陸は、各施設が点在しており、公共交通機関が不十分ということがあり、遠隔地から本学への事例検討の参加が困難であるが、テレビ会議システムを利用することで多くの関係者の参加が可能になり、有効な教育方法となっている。以下、それぞれのコースの特徴について簡単に紹介したい。

1. 「がんライフケアコース」

本コースは今年度新たにスタートしたコースである。これまでとは違い、看護師のみならず、薬剤師、医師、理学療法士など多職種で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法・放射線療法などを受ける患者の事例について意見交換をし、各ライフステージに応じたケアの知識を深めることを目的としている。今年度からはじまり、募集が後期からと遅かったにもかかわらず、3名が履修した。

2. 「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は1名が履修した。

また、8月と9月のがん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のための事例検討会を実施した。今年度は、特別コメンテーターとして8月には北里大学病院の坂下智珠子がん看護専門看護師、10月には北海道医療大学の石垣靖子先生にお越しいただいた。

このような特別な事例検討会に参加することによって、日頃、施設のがん看護の向上のためにひと

りで悩んでいるがん看護専門看護師も、互いに困っている事例の共有ができ、問題解決能力を高める一助になっているようである。

3. 「地域がん看護師養成コース」

本コースのうち『地域がん看護師養成コースⅠ』は、がん看護専門看護師教育課程への入学を予定している看護師が、入学前にかん看護専門看護師の参加する事例検討会に参加することによって、日々の実践を見直せると同時に、その科目を入学後の履修単位としてカウントできるコースである。本年度は1名であった。

また、『地域がん看護師養成コースⅡ』では、大学院への入学は予定していないが、がん看護事例会への出席や本学開催の市民公開講座、リンパ浮腫研修、倫理事例検討会などに出席し、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。既に認定看護師の資格を持っている人や、がん看護専門看護師の資格を持っている人が、資格更新のために利用することもできるように修了証の発行を行って来た。今年度は2名であった。

4. 「地域がん看護活性化コース」

本コースでは、休職中の看護師を復帰教育することを目的として『再就業に向けたがん看護実践サポート』を企画した。テレビ会議システムを用いたがん看護事例検討会では、北信4県でテレビ会議システムを導入した施設のどこからでも事例検討会に参加できるため、育児や介護で一時的に休職中の看護資格を持つ者が参加しやすいのが特徴である。また、本学開催の市民公開講座、リンパ浮腫研修、倫理事例検討会への出席も単位履修の要件に拡大した。また公開講座では、託児所を設け、子育てで休職中の潜在看護師がより参加しやすい工夫を行った。今年度の受講者は、1名であった。



ライフステージ事例検討会の運営に携わって

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

特任助手 樋口 麻衣子

ライフステージ事例検討会は、北信4県の21施設をテレビ会議で繋ぎ、遠隔地からも参加できることが大きな特徴です。内容は「がん看護事例検討会」（60分）とがん看護専門看護師による「ミニレクチャー」（20分）で成り立ち、教員や大学院生、がん看護専門看護師が参加し、意見交換される場となっています。

そのような検討会の運営に携わることになり、テレビ会議システムは問題なく繋がるか、当日まで担当者との連絡は上手くいくかなど不安がありました。しかし、牧野先生をはじめ、本学がんプロ委員の先生方、事例担当の看護師の皆様、がん看護専門看護師の皆様、他施設のがん看護事例検討会担当の皆様お陰で、無事に本年度のがん看護事例検討会も終えることができました。関係の皆様には、心より感謝申し上げます。

本年度のがん看護事例検討会では、10月より、新たに信州大学も加わり、さらに活発な意見交換を行うことができました。がん看護の質の向上を図るため、がん看護専門看護師と共に、日々のがん患者さんやそのご家族への看護実践の中で遭遇する困難事例について、施設の垣根を越えて意見交換を行うことを通して、自分たちでは気付かなかった患者の意味が理解できたり、事象のさまざまな捉え方があり、実践があり看護の奥深さを知ることができる時間となっていました。

また、ミニレクチャーでは、がん看護における今話題のトピックを取り上げて、最近の診療や看護の有り方、事象のアセスメントに有効なツールなど、がん看護専門看護師から、実際の看護に活かせる話題を短時間で学べる場となっており、自分自身もとても参考になりました。それぞれ、有意義な場となっていたことが毎回のアンケート集計より見て取れました。

今後はシステムの拡充に伴い、さらに参加施設が追加となる予定です。また、他の学科の大学院の科目として取り入れたり、広報を活用し多職種が参加できる事例検討会になるように調整しています。今後もこのような貴重な学びを得ることができる、がん看護事例検討会が継続され、今後のがん看護の向上に貢献できるよう発展していくことを願っております。

ライフステージ事例検討会に参加して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

山崎 智可

ライフステージ事例検討会は、年間8回開催される。様々な医療機関から複雑な問題を含む事例が提供される。事例内容は、理解力が低下している患者が治療方法を選択できない、理由があって抗がん剤や麻薬が使えない、病状が悪化している患者に対しての緩和がうまくできないなど、自分が現場にいたらどうするだろうと考えさせられる事例ばかりである。事例提供者にとって、できれば掘り起こしたくない記憶かもしれない。しかし、関わりの初めから時系列にそって丁寧に振り返ってもらい事例を紹介してもらおう。うまくいかなかったという後悔が、事例を振り返る動機になるのだと思う。患者や家族にどう介入したら最適だったのだろうか、もっと良い方策はなかったのかという思いが反芻されるのだろう。事例を紹介してもらった後は、「この部分はどうなっていたのか？」各参加者の頭のなかで、たくさんの「?（疑問符）」が浮かぶ。この疑問は、事例提供者にとって、ひやっとする質問であったり、事例提供者自身も気になっていたという質問であったりする。そうやって、参加者の疑問に事例提供者が答え、参加者各自が事例を自分のなかに落とし込む。次は、参加者それぞれの意見を出し合う検討会が始まる。自分たちだったらこうする、こう介入したらよかったのではなか、様々な意見が飛び交う。事例提供者が全く予想もしていなかった意見もあると思う。事例提供者は頭をフル回転させる。しかし、このように活発な意見交換をした後も「こうしたら正解!」という明確な答えはいつも見つからない。意見交換が終わった後は、もやもやしたなんともいえない気持ちになる。

意見交換の後には、ミニレクチャーが実施される。事例提供者の所属医療機関の看護職が事例に関するキーポイントを分かりやすく説明してくれる。このレクチャーが私にとってはありがたい。もやもやした気持ちを整理するヒントを提供してもらえるからだ。

私が考えるライフステージ事例検討会の効果は、毎回事例検討会後に感じるもやもやした気持ちにさせる原因（例えば、当初から患者、家族、医療者の意見の方向性がずれていた、もう少し医療者が患者に治療の効果を説明するべきであった、患者のキーパーソンに関われなかったなど）と、その原因に対するいくつかの対処方法を説明できるようにし、それを記憶に留め積み重ねることだと思う。この記憶の積み重ねは、次に同じような事例に遭遇したときの対応の選択肢を増やすことにつながる。私は、このもやもやした気持ちの原因と対処方法を自分の記憶の引き出しに入れ込むため、これからもがん看護事例検討会に参加したい。

ライフステージ看護事例検討会参加者アンケート集計結果

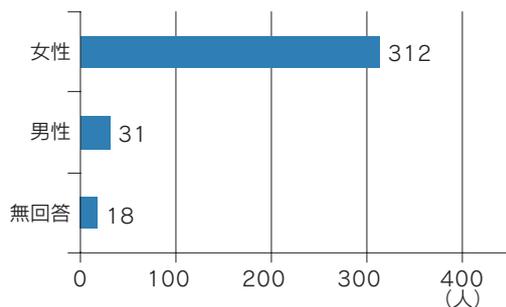
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

特任助手 樋口 麻衣子

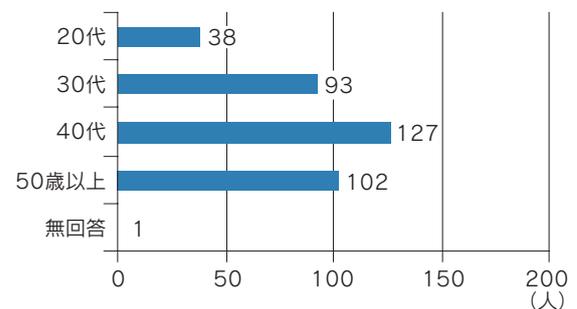
第1回から第6回までの事例検討会にて439名（石川県：163名、富山県：142名、福井県：27名、第4回より信州大学が追加となり長野県：29名）参加し、アンケート回収者数は361名（回収率82%）であった。

1. 参加者について

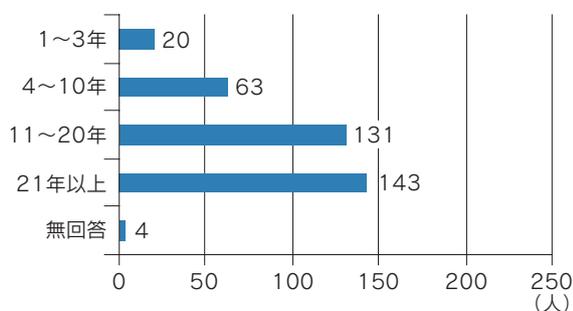
1) 性別



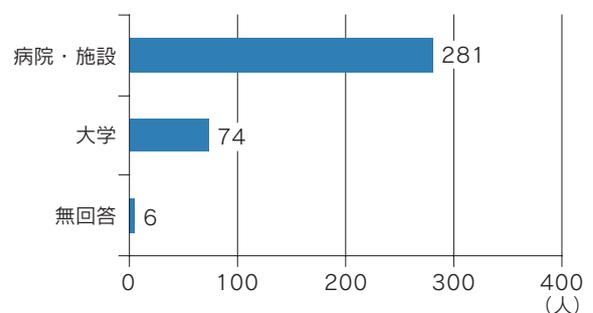
2) 年齢



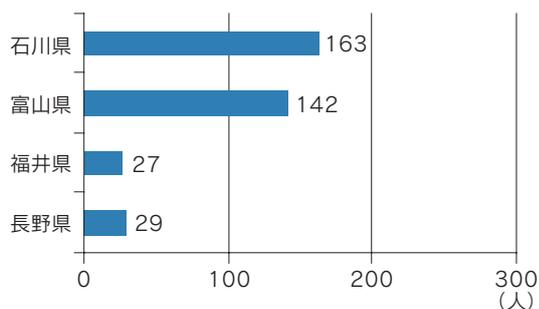
3) 臨床経験年数



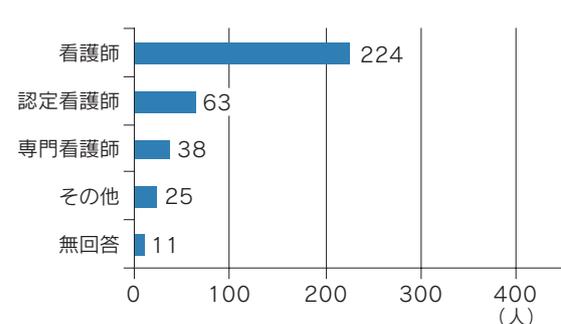
4) 勤務施設



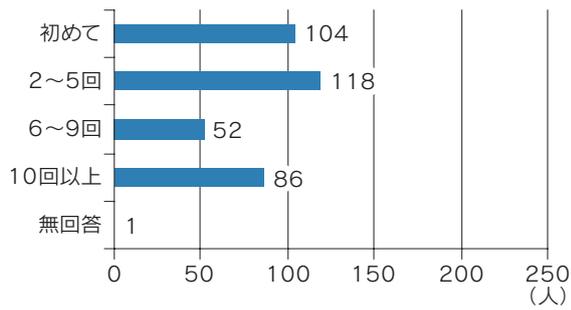
5) 勤務地



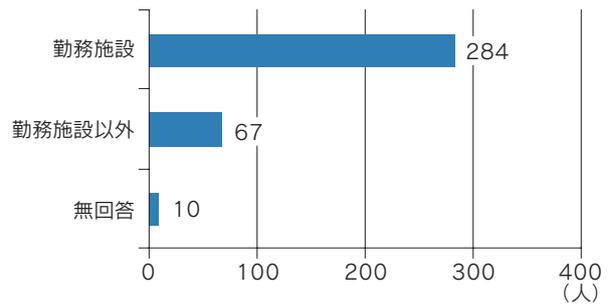
6) 保有資格（複数回答可）



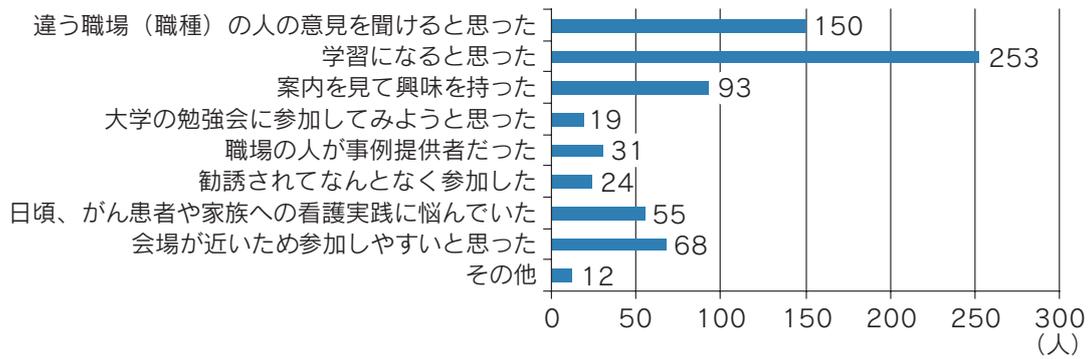
7) 参加回数



8) 参加会場

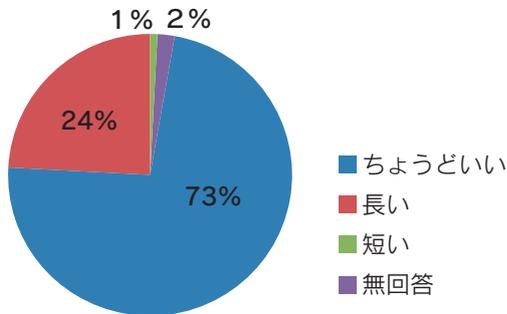


9) 事例検討会の参加動機 (複数回答可)

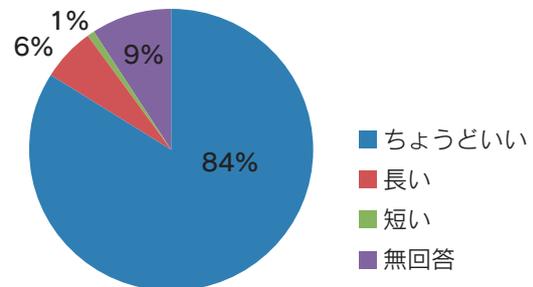


2. 事例検討会の内容について (n=361)

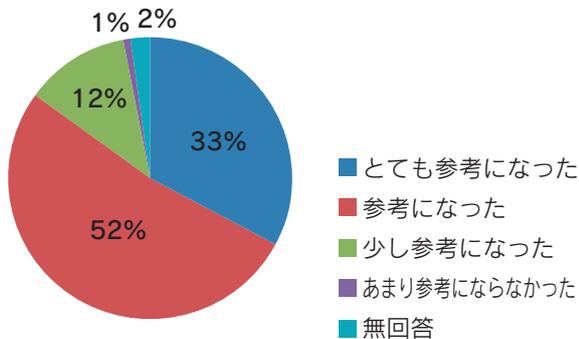
1) 事例検討の所要時間



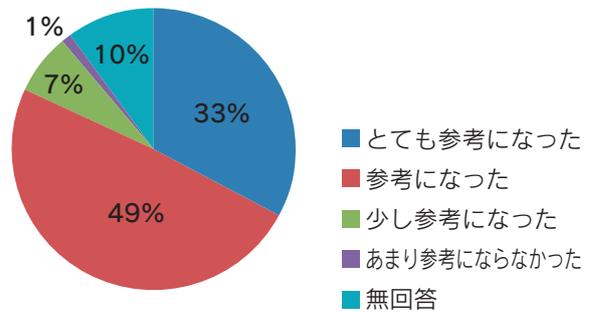
2) ミニレクチャーの所要時間



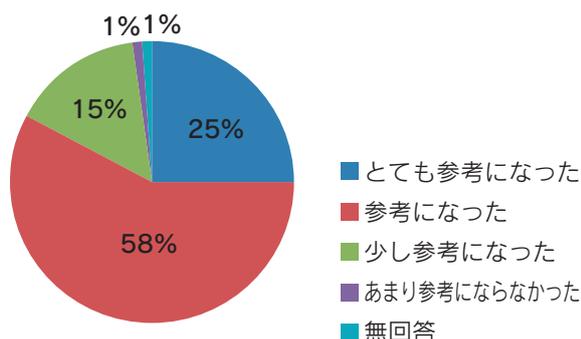
3) 事例検討会の内容



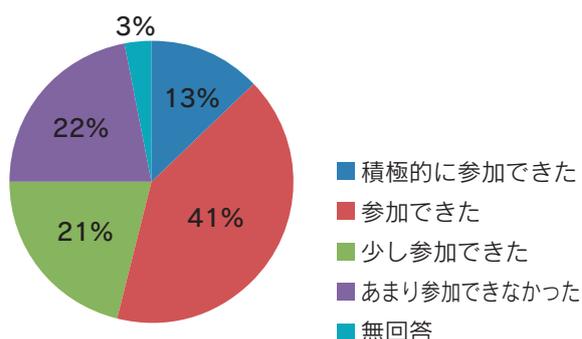
4) ミニレクチャーの内容



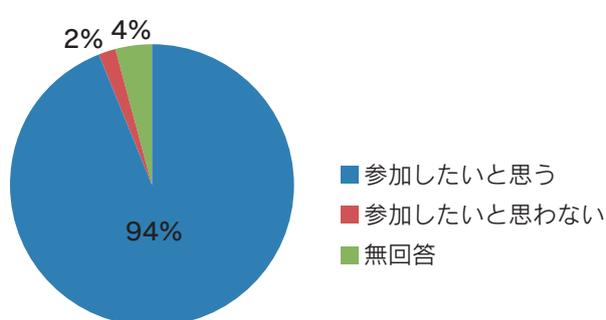
5) 今後の看護実践への活用



6) 討議参加への積極性



7) 今後の参加希望の有無



3. 自由回答への記載内容 ()内は人数を示す

事例検討会の意見・感想

- ・自院だけではなく、たくさんの病院の方々の意見が聞けてとても勉強になった。初めての参加であったが、引き込まれた。(3)
- ・看護の力について改めて考えることができ、多職種からの視点もとても重要だと思った。(2)
- ・大変参考になった。ありがとうございます。(2)
- ・長い間がん患者と関わることがなかったので、最新の抗がん剤の取り扱いが分かりよかった。いろんな視点にたって考えることが出来たので今後を活かしたい。
- ・一人一人の価値観の違いを大切にすることの意味を改めて考えさせられた。
- ・初めての参加なので、流れについていくのに精一杯でした。限られた時間や情報で症例を理解する力がまだまだだと思ったが、いろいろな看護師の意見が聞けて勉強になった。
- ・日々話し合うことの大切さを実感した。

事例検討会の運営について

- ・事例が1時間以内に終了するように、スムーズな進行をお願いしたい。(4)
- ・活発な会議になればいいと思った。あまりにも静かすぎて有意義とは言えない。事例検討会というよりも事例発表という感じがする。(3)
- ・事例検討の総括がないと、振り返りが結局何だったのか分からずスッキリした感じがしなかった。

多職種でもっと参加できるとよいと思う。(3)

- ・意見を聞く施設をもう少し絞った方がよいと思った。(2)
- ・ディスカッションのポイントをもう少し話し合いやすい具体的な内容にすると、沈黙が少なくなると思う。(2)
- ・17:30開始だともう少し参加者が増えると思った。
- ・もう少し(15分ほど)開始時間が遅いと参加しやすい。自施設での開催がないと移動する必要がある
- ・プレゼンの先生の声が聞こえないことがあった。マイクの使い方に注意した方がよい
- ・各施設でのディスカッションの時間が長い方がよい。

今後期待する事例

- ・認定看護師や緩和ケアチームの関わりがあれば教えてほしい。
- ・余命宣告された方への関わり方、看護師、多職種の関わり方を知りたい。

平成 29 年度 ライフステージ事例検討会参加者人数

回数 開催日時	担当	参加大学・病院名	看護師 (医療機関)	看護師 (在宅等)	医師/ 歯科医師	その他	計	
第1回		金沢大学	1	1	0		2	
H29.6.6 (火) 17:45～19:20	○	富山大学	10	0	0		10	
		福井大学	7	0	0	医学部教員1	8	
		金沢医科大学	1	0	0		1	
		石川県立看護大学	13	0	0	教員7、院生3	13	
		小松市民病院	9	0	0		9	
		公立能登総合病院	6	0	1		7	
		国立病院機構金沢医療センター	6	0	0	MSW1	7	
		富山県立中央病院	4	0	0		4	
		富山市民病院	0	0	0		0	
		富山赤十字病院	3	1	0		4	
		参加者計						65
		第2回 H29.7.4 (火) 17:45～	○	金沢大学	3	0	0	
富山大学	7			0	0	0	7	
福井大学	1			0	0		1	
石川県立看護大学	13			0	0	教員7、院生4	13	
恵寿総合病院	3			0	0		3	
石川県済生会金沢病院	9			0	0	院生1	10	
金沢市立病院	4			0	0		4	
富山県立中央病院	4			0	0		4	
高岡市民病院	20			0	0		20	
市立砺波総合病院	19			0	0	8(PT2、OT1、事務3、その他2)	27	
金沢医科大学氷見市民病院	4			0	0		4	
参加者計								96
第3回 H29.8.1 (火) 17:45～	○	金沢大学	1	0	0		1	
		福井大学	13	0	0	4(MSW2、学生2)	17	
		金沢医科大学	1	0	0	院生1	2	
		石川県立看護大学	10	0	0	教員7、院生1	10	
		金沢赤十字病院						
		公立能登総合病院	3	0	1		4	
		国立病院機構金沢医療センター	8	1	0		9	
		富山市民病院						
		富山赤十字病院	4	1	0		5	
		富山県済生会富山病院	5	0	0		5	
		富山県立中央病院	5	0	0		5	
		参加者計						56
第4回 H29.10.3 (火) 17:45～	○	金沢大学	3	0	0	薬剤師2	5	
		富山大学	5	0	0	院生3、教員1、その他2	6	
		福井大学	13	0	0		13	
		石川県立看護大学	11	0	0	教員5、院生4	11	
		小松市民病院	8	0	0		8	
		恵寿総合病院	3	0	0		3	
		金沢医療センター	3	0	0		3	
		富山県立中央病院	7	0	0		7	
		市立砺波総合病院	5	0	0	事務員1、その他1	7	
		金沢医科大学氷見市民病院	12	0	0	PT3、OT2、ST1	18	
		信州大学	8	0	3		11	
		参加者計						92
第5回 H29.11.7 (火) 17:45～	○	金沢大学	3	0	0		3	
		富山大学	4	0	0	大学院生2	4	
		福井大学	5	0	0		5	
		石川県立看護大学	9	0	0	院生4、教員5	9	
		公立能登総合病院	1	0	1		2	
		石川県済生会金沢病院	4	0	0		4	
		金沢医療センター	14	0	1	栄養2、MSW1	18	
		金沢市立病院	1	0	0		1	
		富山県立中央病院	2	0	0		2	
		富山赤十字病院	2	0	0	その他1	3	
		金沢医科大学氷見市民病院	6	0	0		6	
		信州大学	6	0	0	その他3	9	
参加者計						66		
第6回 H29.12.5 (火) 17:45～	○	金沢大学	0	0	0		0	
		福井大学	3	0	0		3	
		金沢医科大学	7	0	1		8	
		石川県立看護大学	10	0	0	院生3、教員7	10	
		小松市民病院	6	0	0		6	
		恵寿総合病院	2	0	0		2	
		国立病院機構金沢医療センター	4	0	0	薬剤1	5	
		信州大学	7	0	0		7	
		市立砺波総合病院	9	0	0		9	
		富山県済生会富山病院	11	0	3		14	
		富山県済生会高岡病院						
		参加者計						64

施設名	担当部署 担当者 電話/Fax	テレビ会議 システム設置室	6月6日	7月4日	8月1日	10月3日	11月7日	12月5日	2月6日	3月6日
がんプロ主催 大学	金沢大学 北陸がんプロ事務局:石塚清志 電話076-234-4205 / Fax 076-265-2855	医学部看護学棟地階大多目的室、or 附属病院外来診療棟4階CPDセンター	○	○	○	○	○	○	○*山瀬	○
	富山大学 医系学務課:荒田一成 電話076-434-7657 / Fax 076-434-4545	看護学専攻棟5階 成人看護学研究室1	○*山本	○	○	○	○	○	○	○
	福井大学 医学部腫瘍病態治療学講座:宇野真理 電話0776-61-8857 / Fax 0776-61-8857	院生棟4階セミナー室	○	○	○*久保	○*松本	○	○	○	○
	金沢医科大学 教学課大学院担当:杉原一良 電話076-218-8060 / Fax 076-286-6054	基礎研究棟3階 大学院セミナー室	○	○	○	○	○	○*上笠	○	○
	石川県立看護大学 教務学生課:寺沢義人 電話076-281-8308 / Fax 076-281-8309	小講義室2	○	○	○	○	○	○	○	○
	小松市民病院 総務課:南成昭 電話0761-22-7111 / Fax 0761-21-7155	南館4階第4研修室	○	○	○	○	○	○	○	○
	金沢赤十字病院 総務課庶務係:沼田直人 電話076-242-8131 / Fax 076-243-7552	5階会議室	○	○	○	○	○	○	○	○
	公立能登総合病院 総務課:北谷内淳 電話0767-52-8744 / Fax 0767-52-9225	第4会議室	○	○	○	○	○	○	○	○
	恵寿総合病院 本館5階:黒氏美紀 電話0767-52-3211 / Fax 0767-52-3218	3階棟6階 会議室	○	○	○	○	○	○	○	○
	石川県済生会金沢病院 総務課:下山芳宏 電話076-266-1060 FAX 076-266-1070	討議室	○	○	○	○	○	○	○	○
石川県	国立病院機構金沢医療センター 管理庶務課庶務係:船登正敬 電話 076-262-4161 FAX: 076-222-2758	地域医療研修センター 第1研修室	○	○	○	○	○*原子	○	○	○
	金沢市立病院 事務局会計グループ長:木谷博司 電話 076-245-2600 / FAX: 076-245-2690	東館3階教育研修室	○	○	○	○	○	○	○	○
	富山県立中央病院 経営管理課管理係:中島聡美 電話076-424-1531 / Fax 076-422-0667	医療交流棟3階 32会議室	○	○	○	○	○	○	○	○*時山
	富山市民病院 看護部:看護科:金丸修子 電話076-422-1112 / Fax 076-422-1371	地域医療研修センター	○	○	○	○	○	○	○	○
	高岡市民病院 総務課兼経営管理室:岩城勇佑 電話0766-23-0204 / Fax 0766-26-2882	講義室	○	○	○	○	○	○	○	○
	市立砺波総合病院 がん診療部がん診療管理室 主任:小幡裕之 電話0763-32-3320 / Fax 0763-33-5202	医局棟5階 カンファレンス室	○	○*平	○	○	○	○	○	○
	富山赤十字病院 総務課:酒井勝輔 電話076-433-2222 / Fax 076-433-2274	3階 講義室	○	○	○	○	○	○	○	○
	富山県済生会富山病院 経営企画室:総務課 係長:吉村英士 電話076-437-1111 / Fax 076-437-1122	消化器内視鏡センター カンファレンス室	○	○	○	○	○	○	○	○
	富山県済生会高岡病院 経営管理グループ 主任:中瀬剛司 電話0766-21-0570 / Fax 0766-23-9025	8階 講義室	○	○	○	○	○	○	○	○
	金沢医科大学氷見市民病院 総務課:池上颯弘 電話0766-74-1900 / Fax 0766-74-1901	教育研修棟 2F 図書室	○	○	○	○	○	○	○	○
ミニレクチャー-担当者										

【○:がん看護事例検討会開催予定施設 ()内は、既に決定している事例発表者】

平成29年度 がん看護事例検討会 開催施設・連絡先 及び 年間開催スケジュール

※外部から参加される方は前日までに開催予定施設の担当者までご連絡下さい。

なお、4月・5月・9月・11月は開催しません。

平成29年度 石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

テレビ会議システムを利用した

休職中の看護師
大歓迎！

ライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりを振り返りましょう！

北陸3県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います！

施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やご家族へのケアについて意見交換しましょう！

◆開催日程（8回予定）

平成29年 6月6日(火)、7月4日(火)、8月1日(火)
10月3日(火)、11月7日(火)、12月5日(火)

平成30年 2月6日(火)、3月6日(火)

◆開催時間 17時45分～19時15分
(事例検討：60分、ミニレクチャー：30分)

◆対象 看護師、医療従事者
がん看護専門看護師申請予定者
休職中の看護師で復職を予定している方

◆会場 開催予定施設のテレビ会議システム設置室
※開催予定施設につきましては、裏面をご覧ください。

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援
倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師がミニレクチャーを担当します

お近くの開催予定会場からの
参加をお待ちしております！
詳細はホームページをご覧ください。

石川県立看護大学
<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
がんプロ.com
<http://www.gan-pro.com/>

◆アドバイザー◆

・牧野智恵：石川県立看護大学 成人看護学 教授（がん看護専攻）

・山田圭輔：金沢大学大学院医薬保健研究域医学系 准教授（麻酔・集中治療医学）

・がん看護専門看護師（OCNS）

我妻 孝則(金沢医科大学病院)	山本 恵子(富山大学附属病院)	坂井 桂子(富山県立中央病院)
村上 真由美(富山赤十字病院)	高地 弥里(石川県済生会金沢病院)	内村 恵里子(石川県立中央病院)
山瀬 勝巳(KKR北陸病院)	平 優子(市立砺波総合病院)	佐伯 千尋(金沢大学附属病院)
松本 友梨子(福井県済生会病院)	上埜 千春(金沢医科大学病院)	原子 裕子(金沢医療センター)
竹中 健(富山県立中央病院)	玉村 尚子(福井県立病院)	藤川 直美(石川県立中央病院)
久保 博子(福井大学附属病院)	高野 智早(福井大学附属病院)	時山 麻美(富山県立中央病院)

◆参加申込先 外部施設から参加される方は前日までに開催予定施設までご連絡下さい。

* 開催予定施設、連絡先は裏面をご覧ください

◆お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 総務課
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1 TEL (076)281-8303 FAX (076)281-8309

企画・運営 石川県立看護大学

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

（石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業）

共催：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

OCNS対象 がん事例検討会 参加者アンケート 集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

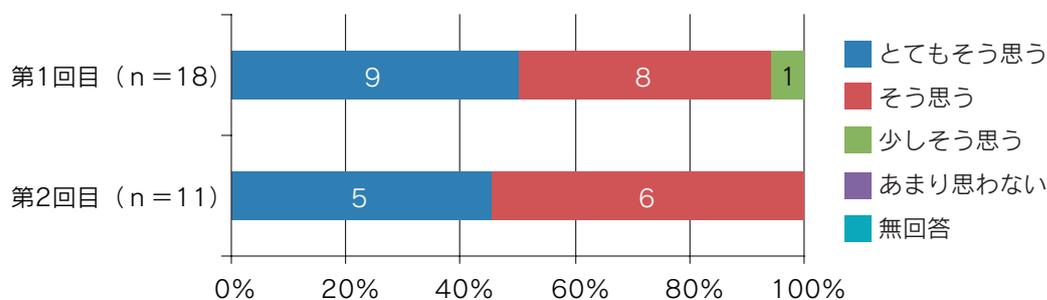
特任助手 樋口 麻衣子

第1回（8月12日開催）参加者は計18名であった。アンケート対象者18名にアンケート用紙を配布し、18名より回答を得た（回収率 100.0%）

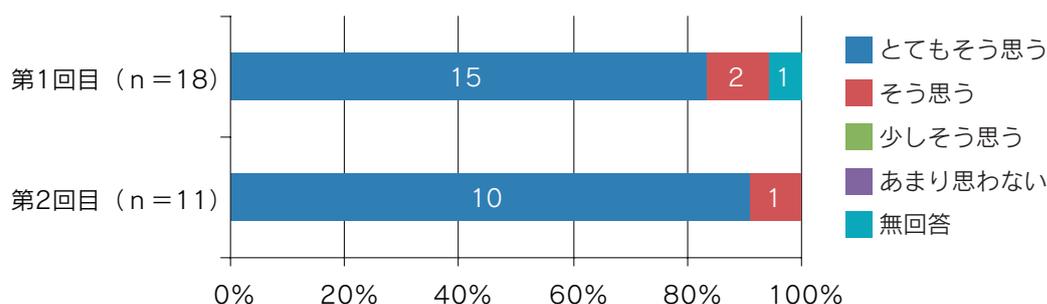
第2回（10月22日開催）参加者は計18名であった。アンケート対象者18名にアンケート用紙を配布し、11名より回答を得た（回収率 61.1%）

1. 事例検討会の評価について

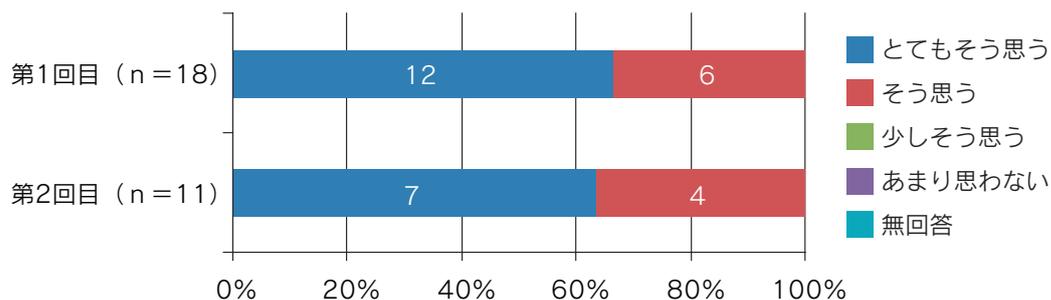
1) 意見交換の内容は今後のCNSとしての看護実践に活かされると思いますか



2) 事例検討会の内容は参考になりましたか

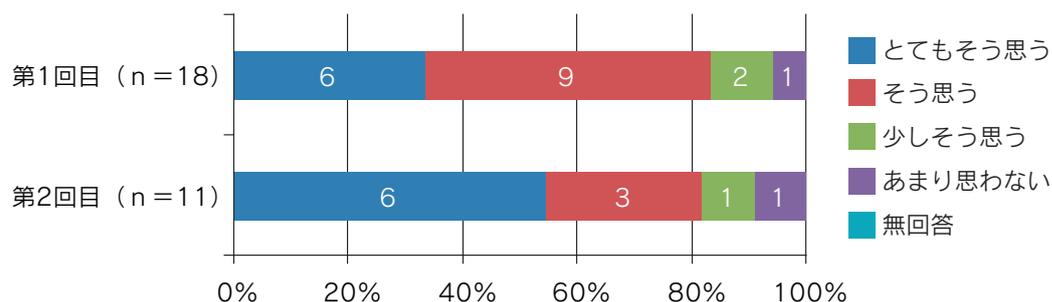


3) 日頃のがん看護実践を振り返る機会となりましたか

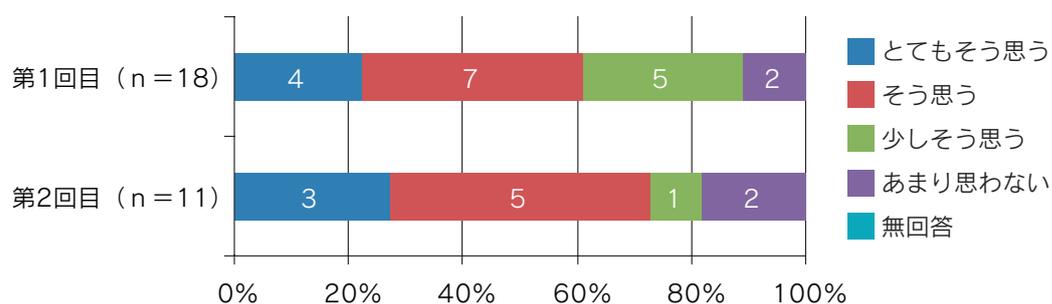


2. 事例検討会への参加の仕方について

1) 討議には積極的に参加できましたか



2) 自身の経験を踏まえて意見などを述べることができましたか



3. 自由記載

- ・本当の価値観に着目してレジリエンスを引き出すことはとても大切だと思いました。
- ・通常と違いCNSレベルの意見交換ができるよい時間だと思います。
- ・患者の気持ちに寄り添い信頼関係を築くケアやチームへの関わりはとても参考になりました。
- ・今までの振り返りにもなり、CNSとしての周囲のスタッフへの洞察、人の見方、感じ方を深めていくことの学びとなりました。
- ・先生方から貴重なご助言をいただくことが出来てよかった。大変刺激を受けた。

4. 検討してみたい内容について

- ・精神疾患を抱えるがん患者さんへの関わり
- ・認知症のがん患者意思決定
- ・子供をもつがん患者への関わり
- ・スタッフをうならせるCNSの働きかけ、実践について
- ・AYA世代のケア
- ・ケミカルコーピングにおける看護
- ・自己の課題に基づいた組織への働きかけの実際
- ・対応に苦慮した倫理介入の事例検討



平成29年度
本学において超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成（北信がんプロ）にて
企画・実施した内容の報告

公開講座 「グリーフの理解とナースに求められること」を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

松本 智里

1. 公開講座の目的

がん看護の対象は、患者のみならずその家族も対象である。特に、大切な人を亡くした家族への看護についてはまだ十分なケアができていない。そこで、がん患者およびその家族へのグリーフケアに関する研修を実施し、グリーフケアについての知識を深めることを目的に本公開講座を企画した。

北陸3県の看護職者および看護学生を対象に、グリーフケアに関する研修を実施することで、グリーフケアの能力向上に繋がると考えた。講師には、グリーフカウンセラーとして国内外でご活躍のモナシュ大学の下稲葉かおり先生をお招きした。グリーフについて根本的な理解から、それに携わる職種としての心構えなどをご講演いただき、グリーフケアについて学びたいとの動機で参加した多くの看護職者および看護学生が学ぶことができる機会となった。

2. 公開講座の概要とスケジュール

講 師：モナシュ大学 看護・助産師学科 講師

下稲葉 かおり 先生

テーマ：グリーフの理解とナースに求められること

日 時：平成29年7月2日（日）13:00～15:00

場 所：石川県立看護大学 大講義室

対 象：看護職者の方、看護学生

主 催：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

共 催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

時 間	内 容
13:00～13:05	オリエンテーション
13:05～14:50	講演「グリーフの理解とナースに求められること」
14:50～15:00	質疑応答

3. 結果

参加者は89名であり、北陸3県全てから参加者があった。公開講座終了後のアンケートは80名から回答があり、「自分にも今出来るケアがあることが分かり、気持ちが楽になった。」「ケアを続けるために、自分たちもケアすると同時にケアされなければいけないと感じた。」「この講演そのものが癒しになった。」との意見が聞かれ、ほとんどの方がこの講演に満足したと回答された。

多くの看護職者ならびに看護学生にとって、グリーフとは何かを学び、それに携わる者としてのセルフケアの必要性や遺族との関わり方について考える機会になったと考える。



平成29年度 石川県立看護大学 公開講座

グリーフの理解と ナースに求められること

参加費 無料

定員120名

大切な方を亡くされた
ご家族へのケアを
学んでみませんか？

講師 モナシユ大学
下稲葉 かおり氏

【下稲葉かおり先生 プロフィール】
看護士として約10年、大卒2次試験合格を経て、1997年よりオーストラリアに渡り、2004年にモナシユ大学にて修士号取得(臨床ケア専攻)。同年よりモナシユ大学に勤務して現在、学生事務部長を務め、臨床ケア専攻部長も経験する。2011年に、『グリーフケアに携わるナースの悩みに寄り添う』著者としてモナシユ大学にて博士号取得。現在、モナシユ大学に在籍する看護学生の指導も担当している。『グリーフケア』『臨終看護』の両方に携わっている。
2015年には、オーストラリア大学にて「喪失・悲嘆・トラウマケアのセッション」の講師として、モナシユ大学にて多くの学生が参加する講座を行った。グリーフケアの重要性について発信している。2017年より、日本で看護職の先生、ナース、サポートなどに焦点を当てた「看護職のためのグリーフケア」を主催している。

座長 牧野 智恵氏 (石川県立看護大学 教授)

対象：看護職の方、看護学生の方

【申込締切】平成29年
6月28日(水)

※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

平成29年 7月2日(日)

会場/石川県立看護大学 大講義室 時間/13:00~15:00 (受付12:30~)

お問い合わせ先 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター
〒929-1210 石川県がほく市学園台1丁目1番地 TEL 076-281-8308 FAX 076-281-8309
E-mail: sogocen@ishikawa-nu.ac.jp (担当: 菅川)

主催：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 共催：北陸がんプロ委員会

申し込みは、左記のQRコードを読み取るか裏面をご確認ください。

グリーフの理解とナースに求められること

モナシュ大学看護・助産師学科
下稲葉 かおり

この講演は、喪失・悲嘆（グリーフ）の定義やそのプロセスについて理解を深めるとともに、ナースに求められるグリーフケアについて学ぶことを目的としました。グリーフは「喪失に対する全人的な反応（精神的、行動的、社会的、身体的、スピリチュアル）、その経験のプロセスである。」(Rando, 1993)と定義され、喪失は死のみをささないという特徴があります。グリーフの元となる喪失には、関係の喪失（離婚、別離）・健康の喪失（病気、身体の一部の喪失）・自尊心の喪失（失業、試験に失敗する）などが一例としてあげられます。これらの喪失の例を考えると、私たちナースは日々グリーフを経験している患者さん・ご家族にケアを提供していることになります。また、喪失に関連した強く痛みを伴う感情を表現することは正常で健康的なことであり、グリーフは指紋のように個人個人異なる経験です。

現在、グリーフのプロセスは2次元モデル (Stroebe & Schut, 1999) で理解されています。2次元の一方は“悲嘆に関連した”、そしてもう一方は“回復に関連した”状態であり、この間を行き来しながら時間とともに“回復に関連した”状態にとどまることが長くなってくると考えられています。“悲嘆に関連した”、そして“回復に関連した”状態を行き来しながら“回復に関連した”状態にとどまることが長くなってくる、この私達人間が本来もつ強さをレジリエンスといいます。レジリエンスは、「重大な困難や人生の危機に直面している状況において、効果的な適応をすることができる能力、そのプロセス」(Machin, 2007)と定義され、グリーフの理解において大切な要素となります。

先に述べたように、私たちナースが日々グリーフを経験している患者さん・ご家族にケアを提供していることを考えると、私たちが喪失・グリーフの経験、そしてその経験をしている人たちのニーズについて理解を深めていく必要があります。悲嘆を経験している人のニーズには、“喪失が認識されること”、“失ったもの、亡くなった人に対して話ができること、聞いてもらえること”、“感情の表現ができること”などがあるといわれます。その方々に私たちナースがまずできることは、それぞれの経験や悲しみ方が異なることを認識し相手の話を“聴くこと”、いろいろな悲しみの感情があっても当然ということを受け入れることではないでしょうか？ナースがグリーフへのケアを提供するために、私たちが死を見つめること、効果的な傾聴と対応のスキルを身につけること、そして自分の限界を認識しバーンアウトを防ぐ必要があります。私たちナースは、日々のケアの中で喪失を目の当たりにし、また関係が築かれた患者さんとの別れを経験します。また患者さん・家族の喪失に触れ、自分自身の喪失が思い起こされ再び悲しむということも起こりえます。先に述べたレジリエンスは私達ナースももっており、ナースが効果的なグリーフケアを提供していくためには、私たちのレジリエンスを強めていく必要があります。そのために必要な要素には、私たちナースもサポートを受けること、私たち自身の状態・ニーズについて気づくこと（自己認知）、そしてセルフケアを行うことがあります。私たちも全人的ニーズ（身体・精神・社会・スピリチュアル）をもち、そこに全人的ケアが必要です。それと同時に、私たち自身のグリーフのプロセスについて気づくこと、そしていつ誰に助けを求めればよいか知っておくことも大切になります。

良い質のケア〔グリーフケアを含め〕を提供するためには、私たちナース自身もケアされ満たされ、ケアを提供する。そして“聴く”準備ができていることが必要だといえます。

「グリーフの理解とナースに求められること」に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程2年 実践看護領域・成人看護分野
渋谷 美保子

7月2日(日)、「グリーフの理解とナースに求められること」と題して、モナシユ大学の下稲葉かおり先生から貴重なご講演を頂いた。

先生は、本題に入られる前に、時間をかけて次のことを話された。

- ①看護師であれば誰でもグリーフを経験している。この時間は自分のことを考える時間でもある。自分の悲しみに触れるかもしれない。
- ②途中で辛くなったら部屋を出ても構わない。
- ③自分の心の観察をして、必ずセルフケアをすること。
- ④看護師として、グリーフを持つ人に何が出来るのか考える。

喪失に対する全人的な反応としてのグリーフ(悲嘆)は誰もが経験するものである。だが単にグリーフを、大切な何かをなくしたことによる悲しみ、とってしまうことは、その人に必要なケアにはつながらない。先生は、「靴のどの部分が痛いかは、履いた人にしか分からない」と例えられた。さらに、「グリーフは取り去ることが出来ないものであり、グリーフと共に生きていくことを学ぶことが大切」と説明された。これらグリーフの特徴をきちんと理解することが、グリーフを持つ人、そして自分自身に心を寄せる第一歩なのではないかと思った。

臨床場面で見過ごしそうになる悲嘆についても考えさせられた。例えば、社会から認められにくい悲嘆として、亡くなった人と同室だった人、高齢者や精神疾患を持つ人などは、グリーフを経験していてもそれを表現する場を持たず、ケアの対象にもなりにくい。グリーフが、人生の中での意味の再構築につながるものであるなら、見過ごされがちなグリーフに目を向けていくことは、看護師として重要なことであると捉えた。

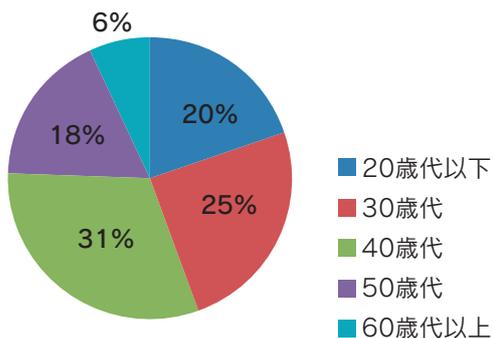
私は現在「悲嘆」をテーマに研究に取り組んでいる。グリーフを持つ人に私が出来ることは何なのか、それを考えることは、自分のグリーフと向き合うことと同じだと日々感じている。言葉にならない感情を聴くこと、その人に寄り添って時間とエネルギーを注ぐこと、その難しさに、気後れしそうにもなる。しかし、「グリーフへの効果的な介入は、グリーフを提供するもののグリーフに対する自己の姿勢と信念に対する自己認知から始まる」この言葉を胸に留めてグリーフケアを極めていきたいと、思いを新たにすることができた1日だった。

グリーフの理解とナースに求められること アンケート集計

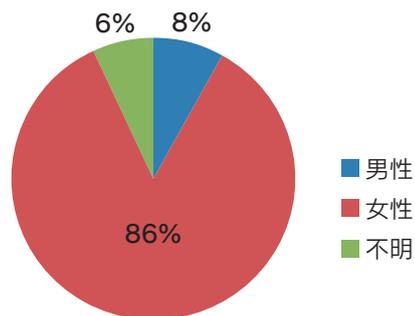
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ） 特任助手
樋口 麻衣子

I. 参加者について

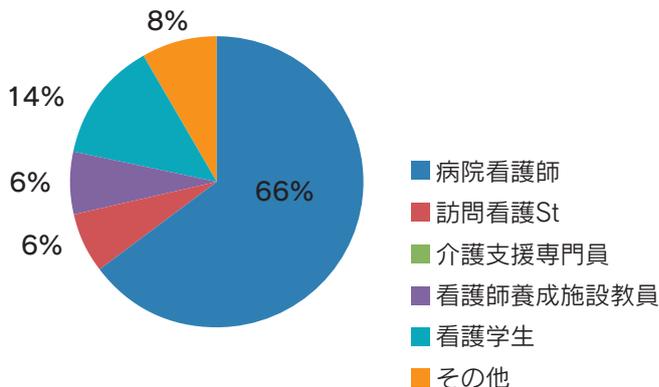
1) 年齢 (n=80)



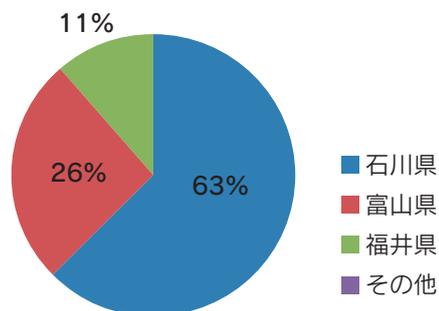
2) 性別 (n=80)



3) 職種 (n=80)

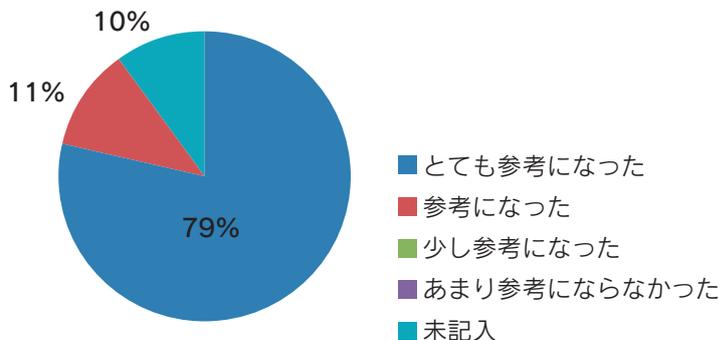


4) 居住地 (n=80)

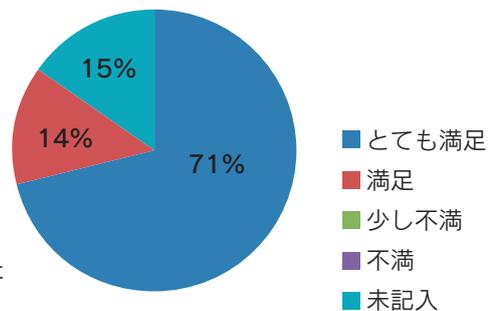


II. 講演内容について

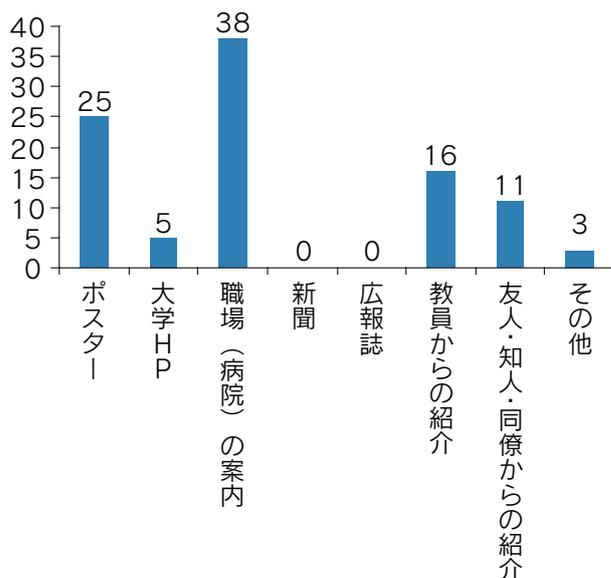
1. 講演の感想 (n=80)



2. 満足度 (n=80)



Ⅲ. 公開講座を知ったきっかけ



Ⅳ. 本日の公開講座への参加理由（自由記載）

- ・自分自身、大切な人を亡くしてしまい気持ちの整理をつけるのに役立つかもしれないと思ったから。
- ・グリーフケアの不足を感じており具体的な方法を知りたかった。
- ・緩和ケア病棟に勤務していて家族と共に患者さんを看取ることが多く、家族へのサポートについて学びたいと思ったから。
- ・治療は終わりになっても、その後の大切さに興味があったから。
- ・グリーフケアという言葉は知っていたが、何が大切なのか詳しく知りたかったため。
- ・グリーフについての研修がなく、自分自身のグリーフについても何か考えが変わるものがあればと思い参加した。

Ⅴ. その他、講演に関する意見、感想（自由記載）

- ・心が軽くなりました。講師の語りが心に響きました。まさにケアしていただいた気持ちです。ありがとうございました。この気持ちを部署や緩和チーム内で共有したいと思います。
- ・自分にも今出来るケアがあることが分かり、気持ちが楽になった。
- ・もっと聞きたいと思いました。敬遠していたグリーフ研修でしたが、異文化を経験されている先生のお話が理解しやすかったです。
- ・悲嘆に対する理解が深まった（死別だけではないということ）。同時に悲嘆のプロセスから立ち直っていくための自分と相手のレジリエンスの発展など日々の仕事に使えるそうだった。
- ・今までは、痛みや苦しみを取り去ることが大切だと考えていたけれど、取り去るのではなく、その人がグリーフを自分の一部として共に生きていけるようにケアをしていくことが大切だと言うことがわかりました。

看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

金谷 雅代

1. 看護実践セミナーの目的

がんの外科手術、放射線照射、リンパ節への浸潤など、様々な要因でリンパ浮腫が発生する。リンパ浮腫を完全に予防することは難しいが、発症のリスクを軽減させることや、発症早期のかかわり、さらに終末期においてもリンパ浮腫のケアは重要である。リンパ浮腫に関する知識をもち、教育やケアに携われるように、本セミナーを開催している。今年度も、セラピストとしての実践経験も豊富な高地弥里先生に講師をお願いした。以下の目標を掲げ、基本的な知識から実践につながる内容、演習まで学んでもらう機会とした。

2. セミナーの概要とスケジュール

講 師：石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師

日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト 高地 弥里 先生

テーマ：臨床で行なうリンパ浮腫のケア

日 時：平成29年9月9日（土） 9：30～16：00

場 所：石川県立看護大学 2階 中講義室4、成人・老年看護学実習室

〈セミナーの目標〉

- 1) リンパ浮腫の機序と病態生理について理解する
- 2) リンパ浮腫のアセスメント方法を理解する
- 3) リンパ浮腫に対するケア方法について理解する

	時 間	内 容
午前 (講義)	9：30～9：35	オリエンテーション
	9：35～10：40	リンパ浮腫の機序と病態生理、浮腫のアセスメント方法 診療報酬に結びつくリンパ浮腫指導管理料の指導内容
	休憩（10：40～10：50）	
	10：50～12：20	リンパ浮腫の複合的理学療法 リンパ浮腫の合併症とその対処法 日常生活のリンパ浮腫予防行動 終末期患者のリンパ浮腫ケア
休憩（12：20～13：20）		
午後 (演習)	13：20～14：50	蜂窩織炎の冷却法 スキンケア 保湿 上肢のセルフマッサージ 上肢の弾性包帯（バンデージ）着用のデモンストレーション 弾性着衣の製品紹介、使用方法説明
	休憩（14：50～15：00）	
	15：00～16：00	終末期患者のアプローチ（マッサージ、伸縮包帯での圧迫、 チューブ包帯使用方法） 実技（マッサージでの圧のかけ方）と質疑応答

3. 結果

64名が参加した。北陸3県からの参加であった。セミナー終了後のアンケートには60名から回答を得た。セミナー受講前後の理解・習得度についての自己評価はどの項目も高くなっていた。知識も実践力も向上し、日ごろのケアに反映していけるものと期待できる。

演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について高地先生に指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の実演により、これからは実践していけそう」という意見も得られた。また「浮腫のアセスメントをしっかりとらううえで、施術方法も把握して対応したい」など、知識を持つことやアセスメントの重要性も学べたことが伺えた。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア

石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師
高地 弥里

私は、2014年に日本医療リンパドレナージ協会認定セラピストの資格を有し、昨年度より本研修の講師として協力させて頂いています。私は、これまでリンパ浮腫看護外来でリンパ浮腫を有する多くの患者さんを看てきました。臨床の看護師の皆さんも、目の前のリンパ浮腫を有する患者さんに悩んでいたり、自分が行えるケアを探したり、実践を通して安楽なケアを提供したいという思いを持っていらっしゃると思います。そこで、セラピストでなくてもリンパ浮腫のケアを行えるという自信を持って頂けることを念頭に置きながらセミナーの内容を練りました。

看護師が臨床でリンパ浮腫のケアを行う多い場面は、主に2つに分かれます。1つは、リンパ浮腫の発症を予防するための患者指導で、もう1つは終末期の方へのアプローチです。進行したリンパ浮腫を有する患者さんへのケアはセラピストが行います。リンパ浮腫は発症すると不可逆性であるため、治すことはできませんが、症状と付き合いやすい方法を患者さんにお伝えすることはできます。そのため発症した患者さんにはI期の状態を維持することが重要となります。これらのことから看護師が行える予防のケアと、セラピストへつないだ方がよいと看護師が判断できることで、患者さんは適切なケアを受けることができ、リンパ浮腫とうまく付き合いしていくことを支援することができます。

セミナーの内容は、リンパ浮腫予防のためのリンパ浮腫指導管理料に準ずる指導内容に必須である、解剖生理、日常生活の注意点、複合的理学療法、感染症発症等増悪時の対処方法等を講義し、セルフドレナージ演習を行いました。ここでは予防期にある患者指導や、浮腫の鑑別を臨床判断できるようポイントを整理しました。また、終末期にあるリンパ浮腫患者さんへの看護をリンパ漏などの合併症のケアも含めて実際のリンパ浮腫の症例をお伝えしながら講義を行いました。終末期のリンパ浮腫ケアにおいては、対象に合わせてケアを工夫しながら行えるよう、終末期患者への圧迫療法等の実演も行いながら、患者さんの安楽を重視したアプローチ方法を講義しました。今年の演習では、少しでも実践ができるよう、終末期の方へのマッサージ手技を一人一人の参加者全員に直接伝達しました。

昨年度と同様に今年は1日の研修でした。受講生のうち2割の方が訪問看護師さんだとお聞きし、予防期から発症初期までのケアだけでなく、終末期の方への看護介入の困難さやニーズの強さを感じられました。臨床で行えるケアの幅を増やすこと、実践を行えるような学びができる研修の企画をすることなど、今後さらに多くの医療者の方にリンパ浮腫の看護技術が習得できるように、私自身も自己研鑽に励んでいきたいと思います。

看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケアに参加して

金沢大学附属病院 看護師
高山 清敏

私はこれまでに、がん終末期、乳がんや皮膚がんでリンパ郭清を受けられた患者さん、リンパ管静脈吻合手術を受けられる患者さんなどの看護に携わってきました。しかし、今までは先輩方から教えて頂いたケアと経験則のみでリンパ浮腫ケアの実践をしてきたため、根拠に基づいた、より実践的なリンパ浮腫のケアを学びたいと思い、今回の研修に参加させて頂きました。

研修では座学から始まり、改めて浮腫の原因と分類、アセスメント方法などについて学び直すことができました。また午後からは、セルフリンパドレナージを各自で行い、様々な用品に実際に触れることができました。特に、セルフドレナージのポイントとして、手の力を抜いて手の圧だけで動かす程度ということが、これまで間違った認識をしていたことに気付くことができました。今後、学んだことを私だけで留めるのではなく、病棟内でも伝達講習をしていきたいと思っています。

また、がんプロの研修では、託児を利用できることも多く、これまでに何度も利用させて頂いています。小さなお子さんのいらっしゃる方でも、研修に集中できる環境が整っていますので、是非託児利用しての研修参加をお勧めします。

がん専門看護師高地弥里先生、北信がんプロのみなさま、今回は貴重な学びの場をありがとうございました。



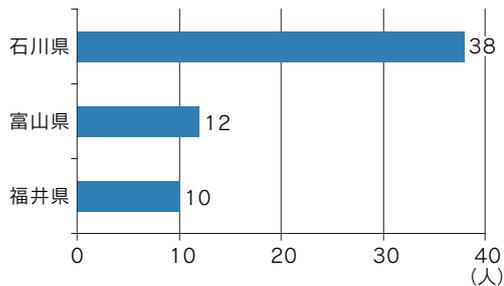
臨床で行なうリンパ浮腫のケア アンケート集計

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

特任助手 樋口 麻衣子

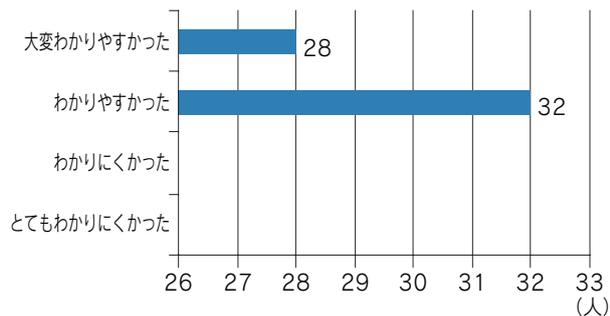
参加者は64名、アンケート回収者は60名（回収率93.8%）であった。

1. 参加者の居住地区（n=60）

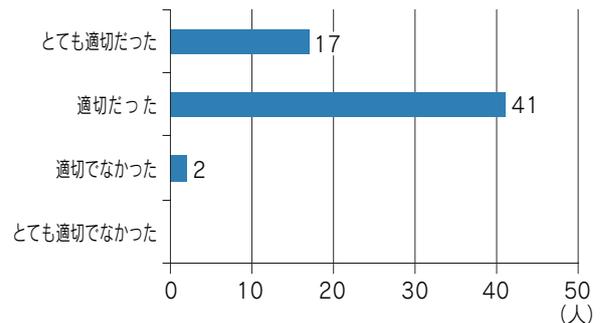


2. セミナーの内容等について（n=60）

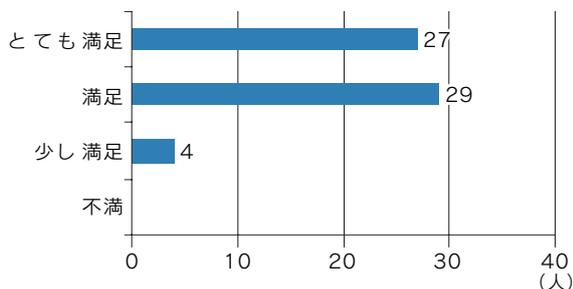
1) セミナーの内容



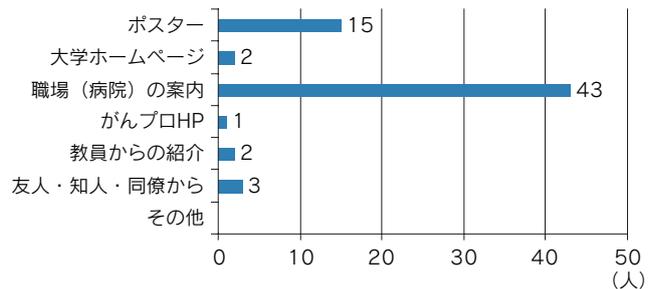
2) セミナーの所要時間



3) セミナーの満足度



4) 情報源（複数回答可）



3. 受講前後の自己評価（n=57）

参加者に各項目の理解度について4段階で自己評価してもらった。

セミナー受講前

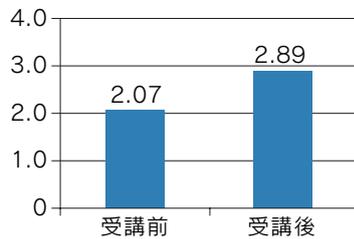
よく知っていた：4点、まあまあ知っていた：3点、少し知っていた：2点、全く知らなかった：1点

セミナー受講後

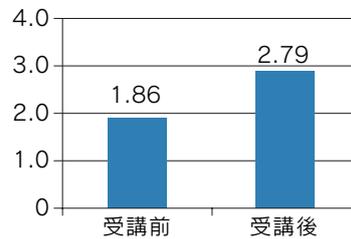
十分習得できた：4点、まあまあ習得できた：3点、少し習得できた：2点、習得できなかった：1点

セミナー受講前後の自己評価の平均点を以下のグラフに示した。どの項目も受講後に評価が上がっていた。

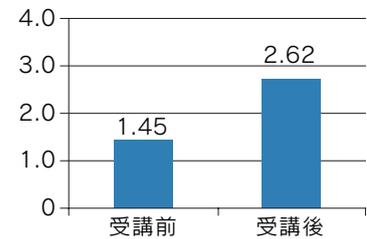
1) 機序・病態生理



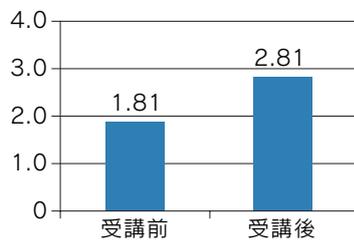
2) アセスメント方法



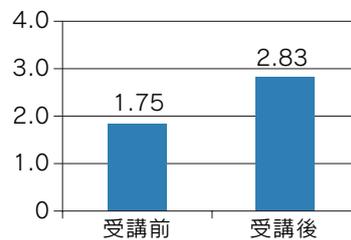
3) 診療報酬と指導内容



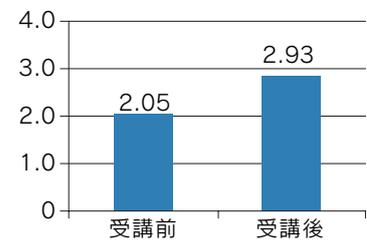
4) 複合的理学療法



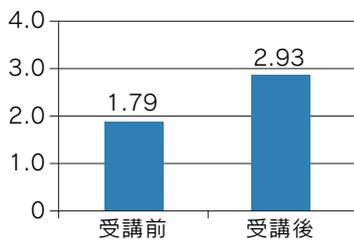
5) 合併症と対処法



6) リンパ浮腫予防

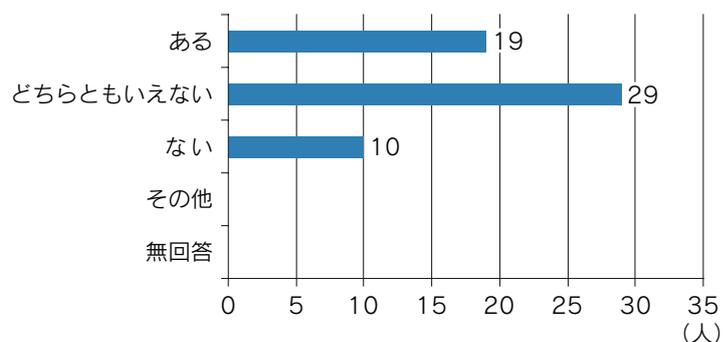


7) 終末期のケア

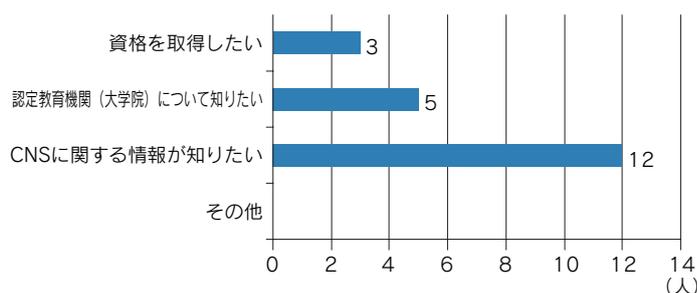


4. がん専門看護師について (n=58)

1) がん看護専門看護師への興味



2) がん看護専門看護師の興味の内容 (n=20)



5. セミナー参加理由 (自由回答：複数回答) () 内は人数を示す

- ・患者さんと関わる際に実践できるように知識を深めたかった。(14)
- ・よいケア方法やアドバイスを知りリンパ浮腫で悩んでいる患者さんの力になりたかった。(10)
- ・今までリンパ浮腫の患者さんがたくさんいたが、どうしたらよいか分からなかった。(10)
- ・リンパ浮腫やマッサージ法に興味があった。(8)
- ・苦痛の緩和を自分の手を使ってやってみたいと思った。(4)
- ・終末期のリンパ浮腫のケアを学びたかった。(3)
- ・以前より気になっていたが、(参加費が)高額だったり、遠方でなかなか参加には至らなかった。

6. セミナーへの感想・意見 (自由回答：複数回答) () 内は人数を示す

- ・今回教わったことを実践し、経験を積んで活かしていきたい。(8)
- ・実技もあり、知識が深まった。力加減は実行しないと忘れるので、忘れないよう実践したい。(6)
- ・伸縮包帯の種類や選び方、ドレナージの指導方法が分かりよかった。(4)
- ・よかったが、身につけるのが一番難しいと感じた。臨床でできるか不安だ。(3)
- ・カメラを使い具体的でわかりやすかった。(3)
- ・以前にも参加して、臨床で実践できていない。今回の午後の実演により、これからは実践していけそう。(2)
- ・リンパ浮腫の軽減方法や、外来についてはよく分かったが、病棟で実際に看護師ができることを知りたかった。今後何を行っていけばよいか分からなかった。(2)
- ・託児があり参加しやすかった。
- ・浮腫のアセスメントをしっかりしたうえで、施術方法も把握して対応したい。
- ・自信を持って実践できるとは言えないが、正しいアドバイスはできると思う。
- ・セルフドレナージが慌ただしくて分かりにくかった。
- ・腹水の方へのアプローチを具体的に教えてもらったので、すぐに取り入れられそう。
- ・実際に圧迫の仕方などもやってみたかった。下肢のセルフリンパドレナージもやってみたかった。
- ・今回の連絡路という表現がすごくわかりやすく、順番などイメージが付きやすかった。
- ・継続してステップアップできる内容にしてほしい。
- ・声がとても聞き取りにくかった。
- ・家族でもできるケアを教えてもらったことがよかった。

7. 今後希望する研修内容（自由回答：複数回答）（）内は人数を示す

- ・アドバンス研修（3）
- ・引き続きリンパドレナージ
- ・自分でセルフマッサージできない人へのケア
- ・在宅支援、訪問看護で取り入れた事例
- ・がんに伴う症状とその対応、鎮痛方法
- ・化学療法の副作用の対症療法や痛みのコントロール
- ・緩和ケアの研修
- ・タクティールケア
- ・小児・若年期の終末期ケア
- ・子供のケア
- ・子供を残して亡くなっていく患者とその家族のケア

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
平成29年度 看護実践セミナー

本セミナーは
修了証を
発行します

臨床で行なう リンパ浮腫のケア アドバンス編

演習
内容

- ・事例のグループワーク
- ・患者指導場面のロールプレイ
- ・マッサージの体験

2018/

2.17^土

9:30~15:30
(受付9:15~)

石川県立看護大学
教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

山岸 愛

石川県済生会金沢病院 リンパ浮腫療法士
日本医療リンパドレナージ上級セラピスト

講師

高地 弥里

石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師
日本医療リンパドレナージ中級セラピスト

時山 麻美

富山県立中央病院 がん看護専門看護師
日本医療リンパドレナージ中級セラピスト

対象 医療職者 18名

※平成28年または29年度開催の
本学リンパ浮腫セミナーに参加された方

締切 2月2日(金) 参加費無料

※お申し込みはWEBで
お願いします



主催 超少子高齢化社会での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)

【お申し込み・お問い合わせ】 石川県立看護大学 石川県立看護大学 〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL: 076-281-8300(代) FAX: 076-281-8354 E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp (担当: 樋口)

北信がんプロ 平成29年度FD・SD研修 「ケアの意味を見つめる事例研究」に参加して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ） 本学運営委員
金谷 雅代

平成30年1月28日に「ケアの意味を見つめる事例研究」のテーマで研修会が開催されました。40名定員一杯の参加者があり、事例研究への関心の高さがうかがえました。

東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護学分野教授の山本則子先生による講演では、事例研究の定義や、事例研究を進めていく手順、看護実践内容を人に伝えるためにどのように言語化していくかなどについて学びました。午前は8グループに分かれて、提示された事例の「キャッチコピー」を練るグループワークを行いました。「キャッチコピー」という考え方に慣れない間は、自分自身の思考の偏りから抜け出すのに苦労しました。午後には、キャッチコピーとも向き合いながら、看護実践内容をカテゴリー化する過程まで行いました。全体で各グループの成果を共有し、自分達のグループにない発想にも気づけたりと学びの多い時間がありました。山本先生に事例研究を研究論文として作り上げる上での課題や解決策についても説明いただき、事例研究の可能性について認識を新たにできたと思います。

今後事例研究に取り組んでいく意欲が高まった貴重な機会になったと考えます。



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）石川県立看護大学
平成29年度 FD・SD研修

ケアの意味を見つめる 事例研究

講師

山本 則子 先生

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護学分野
教授

日程

平成30年 1月 28日（日）

時間

10時～16時 受付 9：30～

場所

石川県公立大学法人

石川県立看護大学 中講義室3

定員40名

参加費無料

対象

看護職の方（教員・院生を含む）



* 定員になり次第、締め切らせていただきます

【申込締切】 平成30年
1月24日（水）

申し込みは左のQRコードを
読み取るか裏面をご確認下さい

お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL:076-281-8300 FAX:076-281-8354 E-mail:ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp（担当：樋口）

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
（石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業）

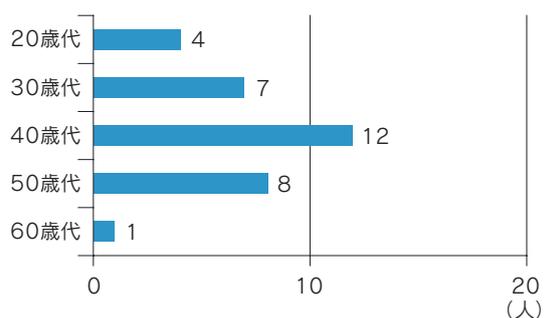
FD・SD研修 「ケアの意味を見つめる事例研究」アンケート結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
特任助手 樋口 麻衣子

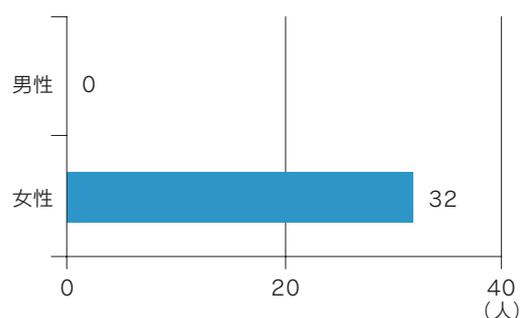
参加者は40名、アンケート回収者は32名（回収率80%）であった。

1. 参加者について

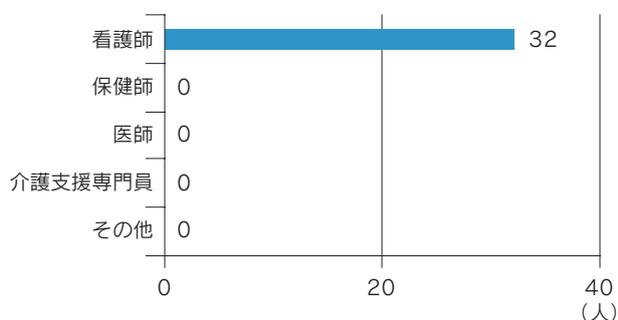
1) 年 齢



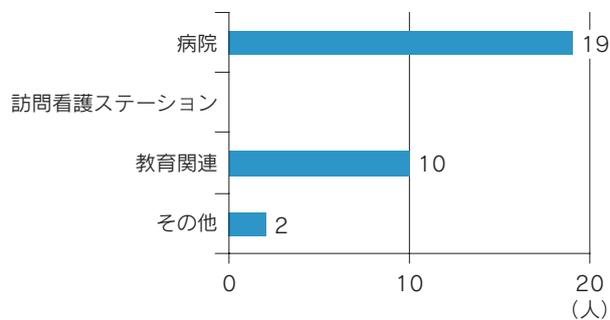
2) 性 別



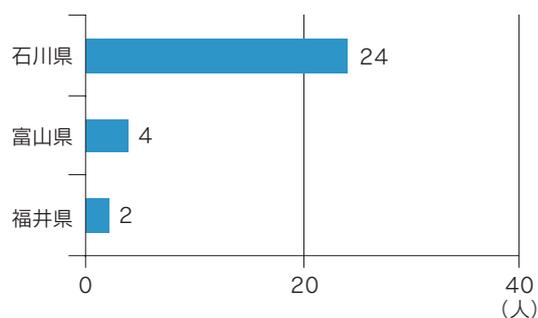
3) 職 種



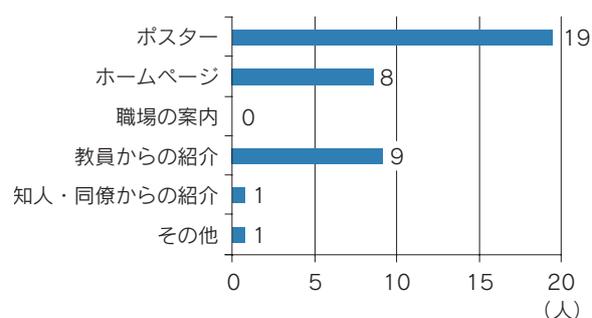
4) 職 場



5) 居住地区

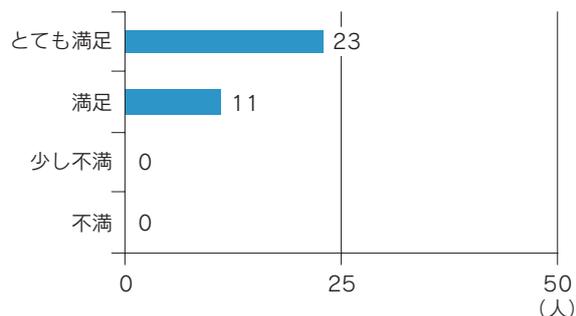


6) 情報源（複数回答）

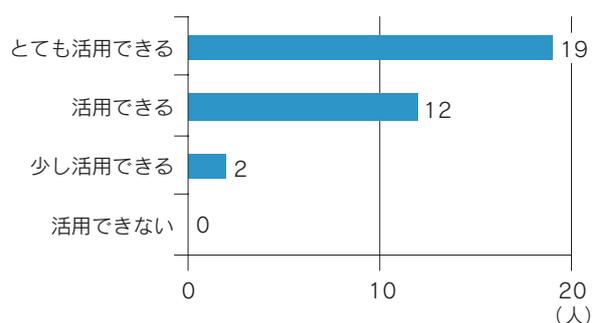


2. 参加した感想について

1) 講演の内容



2) 今後の看護実践に活かせると思いますか



5. 本日の講演会に関する意見、感想について

- ・事例検討を研究に仕立てていく所が分からなかったので、分析の方法が分かった
- ・この続きも受けたい
- ・普段ここまで深く考える機会がないため、よい経験となった
- ・事例研究の具体的な方法が分かり勉強になった
- ・自分の看護を見直す機会になった
- ・講師がとてもよかった
- ・事例研究を知るきっかけとなった。今後より一層勉強したい
- ・頭の固さが、グループワークでの意見でやわらかくなった。「どうしてそう思ったのか?」と問われることは、刺激になった
- ・とても貴重な学びができました

6. 今後の研修会や講演の希望について

- ・資料が今回のようにカラーだと、見直ししやすいので助かる。

SD 講演会
「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

平成29年度 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）SD講演会
石川県立看護大学/金沢大学医薬保健研究域薬学系

参加費
無料

医療者・患者への
抗がん剤曝露予防を
考えよう

定員120名

第Ⅰ部 講演 13:00~13:30
座長/菅 幸生(金沢大学薬学系 准教授)

1. 抗がん剤による曝露状況の調査と薬剤師の職業性曝露を考える

講師 米澤 美和 先生(石川県立中央病院 薬剤部)

第Ⅱ部 特別講演 13:40~14:40
座長/牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)

1. 我が国の曝露対策の現状と課題

講師 青儀 健二郎 先生(四国がんセンター 乳腺・内分泌外科 臨床研究推進部長)

2. 院内の曝露予防の取り組み

講師 岸田 恵 先生(四国がんセンター がん化学療法認定看護師)

第Ⅲ部 パネルディスカッション 14:40~15:00

座長/牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)
菅 幸生(金沢大学薬学系 准教授)

北陸の曝露対策の実際と課題

会場/ホテル金沢(4階エメラルド)

金沢市堀川新町1番1号 TEL:076-223-1111

平成30年
2/(土)
24
13:00~15:00
(受付12:15~)

締切:平成30年2月10日(土)

※定員になり次第、締め切らせて頂きます。



申し込みはQRコードまたは
裏面をご確認ください。

【お申し込み・お問い合わせ】 石川県立大学法人 石川県立看護大学 (担当:樋口)

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL/FAX:076-281-8403 E-mail:ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

「本研修会は、石川県病院薬剤師会生涯認定制度(1単位)、日病薬病院薬学認定薬剤師制度(IV-1 1単位)に申請中」

主催 : 超少子高齢化地域での先進的医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)

共催 : 石川県病院薬剤師会

後援 : 北國新聞社

海外FD研修 「メルボルン緩和ケア視察研修 2018」

メルボルン緩和ケア視察研修 2018 日程予定

日数	月日(曜日)	都市	時間帯	交通機関	スケジュール内容
1	3/24(土)	小松 東京(羽田)	16:40 17:40 18:50 19:50 22:00	JL190 QF026	小松空港国内線ターミナル日本航空カウンターにて搭乗手続開始 小松空港出発、日本航空JL190にて一路東京(羽田)へ 羽田空港到着、国際線ターミナルへ移動 羽田空港国際線ターミナルで参加者集合、搭乗手続後にミーティング(約45分~1時間) 荷物検査、出国審査 羽田空港出発、カンタス航空QF26にて一路オーストラリアへ 〈機内泊〉
2	3/25(日)	シドニー メルボルン	09:35 12:00 13:35 夜	QF431 専用車	シドニー空港到着、入国審査、荷物検査、フライト乗継 シドニー空港出発、カンタス航空QF431にて一路メルボルンへ メルボルン空港到着、荷物受け取り、グループ全員で市内へ移動し市内視察(約3時間) ホテルにチェックイン 〈メルボルン泊〉
3	3/26(月)	メルボルン	午前 午後	専用車	<u>Monash University</u> 〈午前〉 (下稲葉かおり先生による) 緩和ケアおよび心のケア教育プログラムについて または <u>Department of Health & Human Services, State Government of Victoria</u> 〈午前〉 メルボルンにおける緩和ケアシステムの現状と取り組み、課題や優れた点について <u>The Royal Melbourne Hospital</u> など 〈午後〉 病院内で連携、調整された包括的な緩和ケアサービスについて 〈メルボルン泊〉
4	3/27(火)	メルボルン	終日	専用車	<u>Monash Health (Chesnut Garden Nursing Home, Monash Children's Hospital)</u> 〈終日〉 Monash Health は、メルボルン東南地域で医療サービスを提供している公的機関 (資金の一部を政府が負担) であり、各地で「人の誕生から最後の時まで、それぞれ の人と時に合わせた最適な医療・介護サービス」を理念としている。施設の1つで あるChesnut Garden Nursing Homeは2008年開設され、約100名の人が暮らしている。 またリハビリ、腫瘍学、緩和ケア、集中治療室などのカテゴリーにおいて主要な 小児科サービスを行うMonash Children's Hospitalや、小児がん支援サービスを専門に 取り扱うChildren Cancer Centreがある。 ※訪問先変更の可能性あり。 〈メルボルン泊〉
5	3/28(水)	メルボルン	終日	専用車	<u>Epworth Healthcare</u> 〈終日〉 ビクトリア州メルボルンで内科や外科、がん治療、メンタルヘルス、健康診断、 リハビリなど様々なサービスを提供している。4つの支部があり、1,200以上の ベッドと4,000人以上のスタッフを抱え、ビクトリア州最大の非営利グループ。 ※訪問先変更の可能性あり。 〈メルボルン泊〉
6	3/29(木)	メルボルン シドニー	朝 午前 午後 15:20 19:00 20:25 21:45	専用車 専用車 QF462 QF025	ホテルをチェックアウト <u>Banksia Palliative Care Service</u> 〈午前〉 コミュニティにおける緩和ケアを提供する組織。患者さんと医師、GP、専門 看護師などのコーディネーションを行う。また家族支援やスタッフおよび ボランティア教育にも力を入れている。 各自自由視察 〈午後〉 ホテルのロビーで再集合、メルボルン空港へ移動し、搭乗手続、荷物検査 メルボルン空港出発、カンタス航空QF462にて一路シドニーへ シドニー空港到着、荷物検査、出国審査、フライト乗継 シドニー空港出発、カンタス航空QF025にて一路帰国の途へ 〈機内泊〉
7	3/30(金)	東京(羽田) 小松	05:15 07:40 08:45	JL183	羽田空港帰着、入国審査、荷物受け取り、到着ロビーで一旦集合後に解散 羽田空港出発、全日空JL183にて一路小松へ 小松空港到着

オーストラリア海外研修参加者名簿

	大学 / 病院	所 属	役 職	氏 名
1	石川県立看護大学	成人看護学	教授	牧野 智恵
2	石川県立看護大学	老年看護学	教授	川島 和代
3	石川県立看護大学	小児看護学	講師	金谷 雅代
4	石川県立看護大学	基礎看護学	講師	林 静子
5	石川県立看護大学	成人看護学	助教	松本 智里
6	石川県立看護大学	がんプロ	特任助手	樋口 麻衣子
7	金沢大学	看護部	緩和ケア認定看護師	出口 有紀子
8	信州大学	医学部附属病院信州がんセンター緩和ケア部門	教授	間宮 敬子
9	信州大学	医学部附属病院薬剤部	薬剤師	井出 貴之
10	富山大学	看護部	緩和ケア認定看護師	門田 彩花
11	富山大学	附属病院臨床腫瘍部	助教	梶浦 新也
12	福井大学	がん診療推進センター	緩和ケア認定看護師	小林 美貴
13	福井大学	がん診療推進センター	副看護師長	浦井 真友美
14	金沢医科大学	看護学部成人看護学	講師	北村 佳子

〈おわりに〉 新しい「北信がんプロ」スタートの1年を振り返って

大学院実践看護学領域・成人看護学（がん看護）分野 教授
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
本学がんプロ企画運営委員長 牧野 智恵



今年度からスタートした「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」（以下、「北信がんプロ」とする）は、第1期・2期北陸がんプロの参加大学に加え、信州大学が参加し実施された。北信がんプロでの本学の使命は、医学的知識を兼ね備え、アセスメント力をつけたがん看護CNSを育成するために、多職種と連携を図り、がんサバイバーやその家族が安心して治療や看護を受けることができるよう努めることであった。過去10年間の北陸がんプロの成果と課題を基に、多職種と共同したインテンシブコースや研修会の開催、新たなe-learning教材の作成が主な活動であった。

今年度の企画は主に12月以降に実施されることが多く、特に今年度は大雪にも見舞われ実施の際、交通状況への配慮も必要であった。

今年度の新たな試みとして、東京大学の山本則子教授による「ケアの意味を見つめる事例研究」と題したFD/SD研修会の実施があった。県内外から定員の40名が参加し、講義と演習を交え約5時間の意義ある時間を過ごした。参加者からは「とても参考になった」「今後の研究に活かしたい」などと、実践での事例を研究に活かそうとする意見が多く寄せられた。

また、2月には「臨床で行うリンパ浮腫のケア～アドバンス編」と「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」の2つの企画を実施した。リンパケアに関しては、これまでも基礎編として実施してきたが、参加者からの「実践編を企画してほしい」との要望を受け、今年度新たに企画実施した。応用編であるため、石川県と富山県に在住の日本医療リンパドレナージセラピストの資格を持つ3名の講師を招き、参加者を定員20名と制限し実施した。次年度も引き続き実施したいと思う。また、曝露予防に関する講演会は、金沢大学の薬学部の教員との共同で企画・実施し、県の薬剤師協会にも参加を呼びかけ定員120名で実施した。

また、次年度からe-learning教材を筑波大学のEクラウドを利用する関係で、その教材作成に取りかかった。小児・老年の教員に協力をいただき、本学は7～8のチャプターを担当することとなった。

また、3月下旬には、本学企画でオーストラリアの緩和ケアの視察を予定している。内容の報告は、次年度にテレビ会議等で報告させていただく予定です。その際は、ご参加いただければ感謝です。

今年度は主に今後4年に向けての準備段階だったようで、十分な参加者を募ることができなかったと思っています。今後もがん看護の教育充実とがん医療の発展に向け、さらに全国の大学と連携しながら努力していきたいと思っています。

今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。



平成 29 年度
「北信がんプロ」委員会委員、本学各種企画・運営担当者 一覧表

総務委員会	牧野 智恵・石垣 和子・出村 邦夫
教務委員会	岩城 直子・牧野 智恵・金谷 雅代・松本 智里・ 南堀 直之・樋口麻衣子
広報委員会	林 静子・大西 陽子
がんデータベース委員会	該当なし
オンコロジーセミナー委員会	今井 美和・磯 光江
企画委員会	牧野 智恵・山崎 智可
看護保健系会議	牧野 智恵・金谷 雅代

本学 「北信がんプロ」 各種企画・運営担当者一覧表

◎委員長

ライフステージ 事例検討会	◎岩城 直子・牧野 智恵・金谷 雅代・林 静子・山崎 智可・ 樋口麻衣子
OCNS 対象 がん看護事例検討会	◎牧野 智恵・松本 智里・南堀 直之・樋口麻衣子
公開講座 「グリーフの理解とナースに 求められること」	◎牧野 智恵・松本 智里・南堀 直之・山崎 智可
看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫 のケア」	◎岩城 直子・金谷 雅代・林 静子・磯 光江・大西 陽子・ 樋口麻衣子
FD・SD 研修 「ケアの意味を見つめる 事例研究」	◎牧野 智恵・岩城 直子・金谷 雅代・林 静子・山崎 智可・ 樋口麻衣子
SD 講演会 「医療者・患者への抗がん剤 曝露予防を考えよう」	◎牧野 智恵・今井 美和・金谷 雅代・松本 智里・南堀 直之・ 大西 陽子・樋口麻衣子
報告書	◎今井 美和・山崎 智可・磯 光江・南堀 直之・樋口麻衣子

平成29年度
北信がんプロ
～超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成～
事業報告書

発行 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1
電話 076-281-8300
発行日 平成30年3月
印刷 (株)大和印刷社

